

せいわ

2019
医療法人青雲会
清和病院
新春号

●2019年1月発行 ●年4回(1月、5月、8月、11月)
●高岡郡佐川町乙1777
●TEL.0889-22-0300 ●FAX.0889-22-1777
●清和病院広報委員会発行

基本理念

私たちは、患者さま方に良質で安全な満足感のある高度な専門医療技術の提供と、地域における救急医療、保健・福祉サービス、介護などの生活の質(QOL)の向上に寄与することを目指します。

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

日頃より当法人の運営および医療サービスにご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

皆さまのおかげをもちまして昨年2018年には、清和病院開設50周年の年を無事終えることができました。これも一重に皆様のご貢献ご支援の賜物と存じます。重ねて御礼申し上げます。

さて、本年の4月には平成の元号が変わり、またあらたな時代へと進んでいきます。医療・介護においても、様々な改革が行われ時代の流れを感じております。私共は、高知県の西部から高幡地域の中山間エリアにあり、一人暮らしのご高齢の方々も多くおられます。そういった方の中には、高知市内までは受診に行けない方や、診療科が様々な細分化された近年では、どこの病院にかかったらよいのか分からず困っておられる方も大勢おられます。時代が移り多様にかわりゆく制度・サービスに柔軟に対応しつつも、[地域の昔ながらのかかりつけ医]として何かあった時には頼って頂けるよう努めて参ります。

亥の年、しっかりと地に足をつけながらも、[地域の皆様のために]をモットーに、60周年に向け更に邁進して参る所存でございます。どうぞ本年もご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、皆さまの益々のご健勝をお祈り申し上げます。

医療法人 青雲会理事長
清和病院院長
近藤 近江



医療管理部 管理部長 あいさつ

新年あけましておめでとうございます。

今年は元号が変わり、ゴールデンウィークが10連休となり、ラグビーワールドカップが日本で開催される等多くのイベントが予定される年になります。法人にとっては、昨年法人開設50周年を迎え、更に地域の皆様に信頼される医療機関となるよう職員一同研鑽に励むつもりであります。

ついては、各病棟の今年にかけの意気込みを紹介させていただきます。

医療管理部 管理部長
吉川 美穂



1 病棟2階

昨年、7月より当病棟の責任者として配属しました川村と申します。当病棟は『地域包括ケア病棟』と呼ばれ、急性期の治療が終了し病状が安定したものの、周辺の不安・不足が残る患者様に対して、ご自宅や施設等での療養への移行に向けて、医療管理、診療、看護、リハビリを行うことを目的とした病棟です。

病院という特殊な環境から自宅を含め地域社会へ帰るためには、病状の改善・安定はもちろんですが、廃用（療養に伴う様々な衰え）やうつ状態などの二次的な身体・精神機能の変化から始まり、帰る場所や支援する人、利用する資源の問題など、退院後の医療と生活に関わる様々な問題に対応できる準備も必要になります。そのためには病院内外の様々な職種との連携が必要になりますが、それは広い意味でのリハビリテーションそのもので有ると感じています。

私自身は当院の在籍も長いのですが、職種が理学療法士（PT）であり、リハビリ関連部門での職歴しかなかったため、恥ずかしながら病棟という環境では新人同様で、日々老体に鞭を打って（打たれて）勉強の毎日となっています。そんな中でも自分がここにいる意味を形にして示したい訳で、病棟の役割から鑑みて思うのは、やはりより良いリハビリ環境を作って行きたいという事です。病棟にいる新人からベテラン看護師と日々話していき、その様々な思いに触れる中で印象に残った言葉が幾つもあります。それは『笑って退院できる場所にしたい』ということでした。これは、看護職のみならず医療・介護・福祉を支える方々の強い動機付けになりうる象徴的な言葉でした。それは、新たな取り組みに不安を背負っていた私自身にも何か安心を覚えた一言でした。

今年一年はこの言葉を手がかりに患者様とご家族様が退院できて良かったと思えるように一つひとつの業務に意味を持たせ、色んな力を借りていきたいと思えます。



1 病棟3階

1 病棟3階の病棟目標は「整理・整頓・片付け」「相手の気持ちになって行動する」としています。「整理・整頓・片付け」は、安全で安心な医療サービスを提供する上で最も大事にしておかなければならない基本行動です。「相手の気持ちになって行動する」は、常に患者様のことを自分事として考え、行動するためです。この目標は2019年も同様に掲げ、病棟スタッフ全員で一つひとつの業務を丁寧に確実に行って行こうと考えております。

特殊疾患病棟という入院基本料をいただいている病棟の特徴が、療養において身体的にも介助量が多い方が対象なので在宅でお世話したいと思っておられるご家族様でもなかなか実現できない状況があり、入院されている方もいらっしゃいます。その為、ご家族様の面会数も多い病棟になっています。病床数が少なく、ご家族様とも顔の見える関係が作りやすく「患者様と会える事もうれしいですが、職員さんに会うのも楽しみです」と言ってもらえたことも多々あり、職員一同大変うれしく思っています。

このことをやりがいに、今後もご家族様の方に面会に来たいと思っただけでなく、笑顔で迎えるよう、笑顔で迎えるよう、患者様によりよい入院生活を送って頂けるよう努めていきます。

当病棟の患者様は、様々な理由で口からの栄養摂取が出来ない方がおられ、経鼻・胃ろうからの栄養補給を行っている方が半数程度いらっしゃいます。食事は人が生きるための楽しみで最も大きな部分を占めると考えます。どの患者様にも「口を忘れない」為の援助を行っております。まだまだ至らない点が多々あり、ご家族様や患者様のご意見が成長の糧とご意見を真摯に頂戴しつつ成長させていただいています。お気づきの点がありましたら遠慮なくお声を掛けてください。



2 病棟1階

精神療養病棟には症状は安定しているものの社会復帰への不安や意欲減退がある、社会復帰を望んでも家庭環境の変化や生活能力の低下、高齢により自立が困難などで入院が長期化している患者様などが療養生活を送られています。退院後地域で生活を行うにあたり、日常生活を自分で行う事の困難さや、地域に出る・社会に出る事に戸惑いを抱えている患者様が多くおられます。不安や戸惑いは自立を進める中で大きな壁となります。医療を取り巻く環境の変化は「時々入院・ほぼ在宅」と言われている中で、患者様の不安が少しでも軽減され、社会生活を送ることができるよう多職種で関わっています。2018年は院外散歩、花見や紅葉見学にお弁当を持参し季節感を味わう、スーパーでの買い物、院外喫茶利用などを行い、社会との繋がりを通して活動性の向上や患者様の笑顔を引き出すように努めました。病棟では、日々の生活の中で患者様の困りごとや社会生活を送る上での問題など、観察や会話を通して明らかにし関わりを持つようにしてきました。しかし、患者様と日常的な会話はできているものの、職員にゆとりがなく、患者様一人一人と話しをする時間を持てていない現状がありました。

そのため、2019年は「寄り添う看護」を病棟の大きなテーマとしました。患者様・ご家族様の思いを「大切に」にできる様、チームワークと連携を強化し、患者様主体の退院支援が行えるよう患者様一人一人の可能性にチャレンジしていきます。職員が楽しく仕事を行い笑顔でいることで、患者様にも優しく接することや、安心感を与えることにも繋がると思っています。そのために私たち職員は、お互いのことに関心を持ち、お互いの成果を褒め合い、お互い困っていれば助け合うというチームを目指します。また、患者様の「思い」を大切に、患者様が自分で色々な事に意思決定を行う場が持てるようにしていきたいと考えています。



3病棟2階

私達の病棟では急性期の治療を終えられた患者様を受け入れています。

患者様の生活の場の変化による不安なお気持ちが少しでも早く解消できるように、入棟後の患者様には担当者が朝は「おはようございます」消灯前には「おやすみなさい」の挨拶をするようにしています。面会にいらしていただいたご家族様達には担当者や病棟スタッフが必ず声かけするようにし患者様・ご家族様達から遠慮なく話しかけやすい雰囲気になるよう心がけております。

病棟内は様々な職種が患者様をサポートしています。カンファレンスや業務内伝達で情報を共有しそれぞれの患者様の望まれる穏やかな療養生活へ近づけるよう個別的なケアを行っています。

2018年の病棟目標は『整理整頓』『自分の役割に責任をもつ』としていました。各々が自分の専門性について考え、新たなチャレンジをするなど成長に繋がる1年になりました。

2019年は「笑顔がいっぱい」をテーマにしたいと思います。

「感情と表情は連動している」と聞いた事があります。当たり前ですが、人は楽しければ笑います。また笑顔は伝播します。私達が楽しく笑顔で働く事ができていると、その楽しさは患者様にも伝播し空間に活気が生まれ、みんなが笑顔で過ごせます。なので、まずはスタッフが笑顔を提供できるように毎月スタッフ交流会を開催しようと思っています。一緒に働く仲間と共に美味しいものを食べたり、時には汗を流すスポーツを試してみたり…。

考えるだけでワクワクしてきました。

もちろん患者様にも笑顔になってもらいたい。まずは毎日明るく元気な声で挨拶をしていこう。そして患者様のおききした笑顔を引き出すための特別な一日を探し、それぞれの患者様をスタッフ一同でお祝いしていきます。

療養という長期的な生活の場ならではの、患者様・ご家族様達との交流の機会を増やし、その人らしいご意向に添った、生活が送られるようなケアの提供に繋がります。

スタッフには「ここで働けて良かった」患者様・ご家族様には「ここで療養して良かった」と笑顔で言ってもらえる事を目指していきます。



2病棟3階

2病棟3階病棟は、特殊疾患病棟となっており長期にわたり療養が必要な重度の肢体不自由、脊椎損傷・意識障害者等などの重度障害、筋ジストロフィーまたは神経難病の患者様を対象とした病棟です。医師、看護師、准看護師、管理栄養士、栄養士、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士など様々な職種がケアを行っています。

ナースステーションは、オープンカウンターとなり、患者様・ご家族様がスタッフに気軽に話しかけられるようになっています。スタッフは、個々に合ったケアの充実と、医療的技術の研鑽に日々努力し、明るい雰囲気、チームワークよく生き生きと働くように心掛けています。スタッフ全員が笑顔を忘れずに、活気あふれる病棟作りを目指していきたいです。

人工呼吸器装着・気管切開・胃瘻経管栄養など医学的管理の必要な方々も安心して生活していただけるよう、患者様に合わせた症状の緩和や環境の工夫も行っています。

患者様・ご家族様の方と同じ視点に立ち、患者様・ご家族様の思いを大切に看護・介護が提供出来るよう心掛けるよう努めていきたいと思っております。

当病棟は、個々の職域を活かし助け合い支えるよう業務分担をしています。患者様に向き合い異なる職種のスタッフがそれぞれの専門スキルを発揮すると共に職種を越えてスタッフ同士がコミュニケーションをはかり、病棟全体の力を高める取り組みを行っています。2019年は昨年以上に、専門性を活かした業務の見直し出来るよう取り組みたいと考えています。

入院中の患者様の生活の質（QOL）の維持・向上、患者様の人生観を尊重した療養の実現をするために治療や療養に関する質問や悩みの相談、ご希望、ご意見などをお聞かせください。



2病棟4階

当病棟は精神科一般病棟となっており、対象者は精神症状と言われる状態により、通常の社会生活を送ることが出来なくなった時、症状のコントロールや生活の立て直しを目的に入院しています。主な症状は、気持ちが落ち込んで何もする気にならない、夜眠れない、イライラする事が増えた、不安感が強く時にパニックになってしまう、最近の記憶がなく物忘れが多い、気分を上手にコントロールできない、人に見えないものが見える（聞こえる）、夢か現実か解らないといった多くの症状の方が入院しておられます。食べることに眠ること、あたりまえの日常生活が送れることを目標に療養生活を送っていただいています。地域社会復帰できるように、作業療法士と協働して季節に応じた野外活動を計画して春は桜、秋は紅葉見学などに出掛け、イチゴ狩りやピクニックなど、病棟外に出る機会を多くつくっています。普通に私たちが生活するなかで行う、カラオケを歌うことや映画鑑賞、ゲームなどお楽しみの時間を入院生活の中に取り入れて単調な生活にメリハリをもたせています。

入院生活は、非現実的な事も多く満足できる生活にはほど遠いかも知れませんが、その中で私たち病棟看護師が大切にしていることは、第1に患者様と対話することで職員各々が思考・判断・行動ができるようになること。第2に日常生活の関わりの中で『その人のより良い』を見出し援助していくことを目指しています。その人のより良いは、固有の生活史や生活環境が異なるために教科書のように上手くいかない事もありますが、試行錯誤しながら模索しチャレンジしています。最終的には、急性期の症状から脱し病気を持ちながら地域での生活をする事を目指しております。医療・福祉と地域連携を図るために連携先についての理解も重要と考え、日々の経験から学び職員それぞれの専門性が発揮できるように頑張ります。



2病棟2階

2病棟2階は「認知症治療病棟」です。認知症病棟といっても高齢の為・脳の病気等様々あります。その為患者様の状態に合わせ、日中は作業療法士を中心とし活動（塗り絵・計算・体操・誕生日会・季節に合わせた飾り作成）外部の買い物や季節ごとの外出を行っています。日中の活動量を上げる事で認知機能の維持向上に繋がり、夜間もぐっすりと眠れる事が出来ます。また在宅や地域へ向け支援を行っています。色々な疑問や不安があると思います。そのような時、当病棟には精神保健福祉士（相談員）がいますので大丈夫です。また在宅や地域に向けての取り組みとして個々にあった援助をさせて頂いてますが、残存機能を生かせるように患者様本人ができる事はやって頂くようにしています。

当病棟のかかげてる目標としては「笑顔」です。毎日患者様に1回でも多く笑い・楽しいなと思って頂くことです（笑う事により認知機能が向上したという話もあります）。笑顔になれるよう取り組んでいることとして、スタッフも笑顔で接するように心がけています。

表情が暗い患者様には「笑っている顔が良いよ」など声をかけるようにし、何でも相談しやすい環境を作れるように日頃からコミュニケーションを取り、患者様の不安や心配事を傾聴するようにしています。



3病棟1階

認知症は誰でもなる可能性のある病気です。その大きな問題は、記憶の障害によりその人らしさが奪われてしまう事にあります。認知症による様々な精神的・身体的症状により在宅での生活が困難な方々が入院されています。3病棟1階のモットーは患者様に寄り添い、出来る事は少しでも自分で行ってもらい、その人らしく生活できる場として作業療法やレクリエーションと一緒に楽しみながら、懐かしい昔の遊びや暮らし好きだった歌を伺いその方に合ったプログラムを考え、認知症に伴う症状が少しでも緩やかなものになるように温かく見守る環境を重視していくように心掛けています。

看護師は身体的・精神的側面からその患者様に合った看護として、患者様の状態を看ながら出来る事は維持できるように、寝たきりにさせない看護を目指しています。栄養士は必要な栄養状態の管理の為に、食事摂取状況・検査データから医師や看護師とその方に必要な栄養バランスを考え提案をします。作業療法士は患者様の認知機能・身体機能の維持向上の為、日常生活動作や机上活動、下肢の筋力維持向上ができるレクリエーションを取り入れ患者様が楽しみながら活動できるプログラムに取り組んでいます。他にも、季節を感じてもらう為に院外へのお出かけや、病院に併設された喫茶店へ患者様数人で出かけお茶会を楽しんでいただいています。

患者様の症状が安定した場合や退院についての不安・疑問等には病棟相談員が主となりご家族様と一緒に考え、患者様・ご家族様にとってより良い退院後の生活を実現できるよう、地域の施設や担当ケアマネジャーと連携をとり退院調整を行わせていただきます。又、レクリエーションや毎月の病棟イベントでの様子や普段中々見ることの出来ない患者様の表情を病棟で発行している「元気になる通信」に載せ毎月ご家族様の元へ送らせていただいています。

2019年も3病棟1階は患者様と共に過ごし体操やゲームを取り入れ体力・下肢筋力向上に努め、常に患者様の笑顔が見られるよう明るく心のこもったサービスを提供し、患者様とご家族様を繋ぐ架け橋になれるよう努めてまいります。



在宅支援部

在宅支援部門の特徴は、何と言っても患者様・利用者の皆様の自宅生活と密接に関わっていることです。その為に、日々変化する皆様の状態に他部署・多機関と常に連絡を取り合って業務にあたる、というスピード感と柔軟さとが求められる部門だと認識しています。在宅支援部門には、介護保険のサービスとしてご利用いただける通所リハビリテーション「せいわ」・デイサービスきららの里(きらら舎運営)・訪問リハビリテーション、医療保険における精神科デイケア サン・スクエア・セイワ、精神科訪問看護と各種サービスおよび相談業務が主となる相談室・退院支援室があります。

これらの各部署では、提供しているサービスはさまざまですが、共通して言えることは、日々の関わりの中で、ちょっとした状態変化や不安に、細やかにそして柔軟に機を逃さず対応させて頂くことが重要だと感じています。その為に、利用者の皆様やご家族様とのコミュニケーションを大切に、日々てんてこまいで肩間にしわがよりそうな時でも、たとえひきつっていたとしても笑顔を忘れず、その時々のご相談に柔軟な対応・判断できるよう努めて参りたいと思います。

そして、もう一つの特徴としては、部門に所属している職種も多種多様です。そのことが部門の強みとなるように、部署内での情報共有や互いの認識をその時々でしっかりと確認しあいサービス向上につなげたいと考えています。また、対象となる方の居住地は、東は日高村・奥は仁淀川町別枝・西は四万十町と広域ですが、それぞれの部門ごとの強みを活かしてもっとも適切なサービスが提供できるように努めて参ります。気になっておられることやもう少し詳しく知りたい、と思われた方はお気軽に在宅支援部門へご相談ください。

元号の変わる今年、私どももサービス向上にむけ気持ちあらたに取り組んで参ります。本年もどうぞ在宅支援部門をよろしくお願ひ申し上げます。



おしらせ

精神科救急情報センターが設置されました!

平成30年12月1日に平日夜間・土日祝日における精神的に緊急の受診が必要な状態になった場合の相談窓口・連絡窓口が一本化され、状態に応じた相談・受診がしやすくなりました。精神科救急の病院が初めてでも、センターが相談内容をまとめて予約票を事前に精神科救急の病院へ回してくれます。かかりつけの精神科病院がある方でも、平日夜間や土曜休日に状態が悪化した時には「精神科救急情報センター」へお電話されることをお勧め致します!

精神科救急情報センター

フリーダイヤル 0120-556-499

平日：午後5時～翌日午前9時
土曜日：正午～翌日午前9時

休日：午前9時～翌日午前9時